

SDGsでつながろう！ NPO×企業×大学のコラボ会議



令和6年1月14日(日)さがみはら市民活動サポートセンター、ユニコムプラザさがみはら、NPO法人さがみはら市民会議の3者が協働でイベントを実施しました。多くの方に参加いただいたこのイベントの紹介をします。

3部構成で行われ、参加者は57名で、市内NPO、企業、大学生、大学関係者が参加しました。

第1部 基調講演

(一社)SDGs市民社会ネットワーク 理事・事務局長 新田英理子様
に講演いただきました。SDGsへの理解を深めました。



第2部 つながり体験談リレートーク

NPO・企業・大学から体験談をリレートーク形式で発表いただきました。
各所属で取り組まれているSDGsの取り組みや、団体の設立経緯のお話、
つながりにより生まれた成果等、短い時間でご紹介いただきました。

発表者

法律事務所S 宇田川隼様
AKIRA~budo school~ 青木亮様
学生団体 Yippee(イッピー) 高田いのり様
桜美林大学リベラルアーツ学群 江藤佑様
NPO法人 日本福祉リレーションシップ協会 鈴木健一様
藤野電力 高橋靖典様



第3部 マatchingワークショップ

9つのグループに分かれ、所属する団体が「提供できること」、「提供して欲しいこと」について話し合い、それを付箋に書いたうえで、模造紙にまとめていくワークショップを行いました。グループごとの発表も行いました。



各団体が抱える課題を共有し、「つながり」によって解決することができるものがあると実感するイベントとなりました。特に印象に残っているのは、「つながり」は、双方がウィンウィンな関係でなければ、持続可能な「つながり」には成り得ないということです。「つながり」をとおして得意分野を活かし、関わりあうことで目的を達成することは、協働の本質であると感じました。

さがみはら SDGs アワード 2023

受賞団体



| | | |
|---------|--------------------|---|
| 相模原市長賞 | 櫛さがみこファーム | 【ソーラーシェアリング型ブルーベリー体験農園による地域創生の取り組み】 |
| 優秀賞 | 一社) さがみ湖森・モノづくり研究所 | 【木を使うこと、森を守ること】 |
| 協働賞 | 橋本商店街協同組合 | 【地域で育てる繋がりと安心して暮らせる街の創造】 |
| 審査委員特別賞 | 橋本小学校 | 【橋本るんるん大作戦～HEROのかけらを回収して、再製品化プロジェクト～】 |
| | HIYAKUKICHI | 【学生の飛躍×地域の交流拠HIYAKUKICHI by Saltista 橋本 FC】 |

令和4年度に引き続き、今年度も市内企業や団体のSDGsに関する優れた取組を表彰する「さがみはらSDGsアワード2023」を相模原青年会議所、津久井青年会議所及び相模原市の協働で開催し、5つの団体を表彰しました。

協働賞受賞「橋本商店街協同組合」にインタビュー！

橋本商店街協同組合は、昭和40年に市内で初めて法人化を行い、相模原市北部の交通の要衝である橋本駅周辺の商業集積地として発展した商店街です。取り組みにより、毎年会員数が増加し、200件を超える会員が加盟しています。商店街という地域の共同体が、「社会的弱者にやさしい街」の実現を掲げ、商店街内における連携のみならず、企業や団体とも連携し、「職業トレーニング」を始めとした様々な取組を進めていることが評価されました。今回は、橋本商店街協同組合の上田 聡さんにお話を伺いました。



後段一番右が上田さん



活動の様子



Q. 様々な相手と一緒に活動してよかったことは？

さがみはら若者サポートステーションとの職業トレーニング事業（通称：職トレ）を通して、引きこもり経験者等が実際に働いている姿をみてもらうことで、「引きこもり」についてのネガティブなイメージを壊すことに繋がり、多様な若者の実態を多くの商店街及び地域の方々に理解してもらうことができました。商店街のFace to Faceの職トレを通して、プログラム体験者も社会復帰に向けた自信創出の一助になりました。また、商店街の会員店舗の多くは人材不足の悩みを抱えていたことから、この活動を通じて職トレ修了者約30名のうち9名が会員店舗に就職することにつながり、多様な若者の働きがい創出・地域経済の一助となっていると感じています。また、この取り組みを通して、商店街の障がい者の街の関わり方にも視野が広がり、障がい者の絵画を展示や目の不自由な方を音声で誘導するガイド地図の実証実験等、協働の場が広がっております。

Q. 協働のコツ・ポイントは？

人と人の交わりであり、3ヶ月という長期間のプログラムであることから、お互いの関係性を築くため、定期的に商店街・プログラム体験者・さがみはら若者サポートステーションの三者で面談を行い、目標設定や現状の悩み、課題の軌道修正等を行っています。また、OB・OG（卒業していった職トレ生）の存在や、商店街の会員店舗の温かい対応も大きく、その様なサポート体制が整っていることで、持続可能な取り組みに繋がっているのではないかと感じています。

Q. 市民の方へメッセージを！

多様性の現代と言われ、様々な価値観がある中、3ヶ月の職業体験を通じて、自らの可能性を発見し、地域社会との繋がりを強めることができました。しかし、更なる成長を促すためには、地域の皆様の温かいサポートが必要不可欠です。また、地域ぐるみの協力と理解が、彼らの変化をより意味深いものにしていけると思いますし、彼らの成長は、私たち全員の成長でもあると考えております。一人ひとりの力で、地域全体をより強くし、未来を共に築く喜びを分かち合い、誰もが安心して自分らしく暮らせるまちの実現に向けご協力のほどよろしくお願ひいたします。

地域活動・市民活動ボランティア認定制度

～多くの学生を認定しました～

一定時間以上の地域貢献活動を自主的に行った大学生及び大学生によって構成される団体に対して、市として認定を行う「相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度」の認定証贈呈式を令和6年2月15日（木）に開催し、多くの学生（認定者）にご出席いただきました。

今年度は過去最多の93名及び9団体を認定し、学生によるボランティア活動の盛り上がりを感じられました。



あいさつする中村さん



(間もなく更新)



認定証の贈呈が終了した後、認定者を代表して中村愛美さんからあいさつをいただきました。中村さんは活動を通して「ボランティアは多くの人に関わり成り立っていること」や「相手に喜んでもらえることに対するやりがい」を感じ将来に活かしたいと話していました。認定されたみなさま、学業の合間を縫ってボランティア活動に取り組んでいただき、ありがとうございました。

協働事業提案制度の行政提案の受付がスタート！

協働事業提案制度で各課の課題を解決してみませんか？

各課の困りごとを市民活動団体のノウハウを活かし、解決を図ることが出来ます。

事業を実施する場合、予算要求のみ各事業担当課に行っていたら、予算化にあたってのヒアリング等、財政課との調整は一括して市民協働推進課が行います。検討している事業がございましたら、お気軽にご相談ください。協働ニュース第7号に詳細もあります。

パンダの赤ちゃんのイラスト

編集後記

今年度2号目です。文章量が多くなりましたが、伝えたいことをA4両面になんとか納めました。

橋本商店街協同組合の上田様には、大変お世話になりました。日ごろの活動での熱い気持ちが伝わり、大変感謝しています。協働事業提案制度については皆さんぜひご検討ください。説明にもすぐ伺います。